

令和2年度 第1回総合教育会議資料

令和3年3月23日（火）
学校教育課

GIGA スクール構想の今後の展望について

1 はじめに

文部科学省が進める「GIGA スクール構想」は、子どもたち一人一人に「誰一人取り残すことの無い、公正に個別最適された学び」を実現するために、児童生徒に1人1台の学習用端末の整備を行うものであります。また、市の最上位計画である第2次山武市総合計画の17の重点施策の1つである「5-1 学校教育の充実」の4「ICT教育の実践」として、重点的に取り組むべき分野の1つでもあります。

2 導入状況と事前研修について

(1) 学習用端末 Dynabook K50 (児童生徒用 3,024 台、教師用 210 台)

※別添資料参照

(2) 導入状況 3月13日（土）睦岡小、新日向小に納品・設定を行い市内全校への導入終了。

(3) 事前研修 授業支援学習ソフト「SKY MENU Cloud」の事前集合研修
3月11日（木）12（金）の2日間、3会場で、各校の教務主任等1～2名が参加し実施。

3 実際の授業における活用について

(1) 個別学習での活用

- ・eラーニングによる一人一人の習熟の程度、興味関心等に応じた学習、家庭学習（ドリル学習）。ドリルタイム等での全校・学級一斉での取組。学習の積み重ね状況の確認。
- ・一人1台端末を活用したインターネット等による調査学習の充実。

(2) 一斉学習・協働学習での活用

- ・PCや教材提示装置、大画面テレビ・電子黒板を使って、他の児童生徒の意見を理解したり、複数の意見や考えを議論したりする協働学習に取り組む実践が見られるようになっている。

(3) 各教科毎の活用例（※活用計画は、各校作成の年間指導計画に記載）

- ・算数（数学）については、小学校では、表やグラフの作成。中学校の関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返して試行錯誤する。
- ・理科については、端末を活用して、気付いたことを写真や動画で保存したり、児童

生徒一人一人が主体的に観察、実験の記録等を作成し、クラス全体で共有して考察を深める。

- ・外国語（英語）では、オンラインシステムを活用した校外の外国人講師（ALT）との学習、小規模校同士の英語によるコミュニケーションを図る機会の提供。また、音声認識機能を用いた「話すこと」等への活用。

- ・特別支援教育では、視覚的に学べる教材により、算数での集合数と順序数の概念の違いといった抽象的な概念を理解することができる。

4 今後の展望について

これからの時代を生きる子どもたちにとって、PC 端末は、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残されないようにしなければなりません。子どもたちには、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、未来社会を自立的に生き、資質・能力を一層確実に育成し、ICT を適切・安全に活用できる情報活用能力を育成していくことが大切になっていくと考えます。